

## 宮古発

### 民話のCDを市に寄贈



宮古市内に伝わる昔話や民話を録音したCDが宮古市に贈られました。被災した人たちの「癒し」にも役立ててほしいというものです。CDを市に贈ったのは市内の映像・音声制作会社、「浜守人クリエイション」です。藤原美以子社長らが宮古

市役所を訪れ、昭和50年代にまとめられた本、「宮古むかしばなし」と「田老の民話」を録音したCD合わせて5セットを山本市長に手渡しました。

市内に伝わる昔話や民話はそれぞれの地域で古くから親しまれてきましたが、それらをまとめた書物の多くが、津波によって流されました。

このCDは宮古市内の観光施設や道の駅でも販売されています。(11/9 ニュースエコーより)

## 陸前高田発

### 旧市庁舎お別れ式



東日本大震災で被災した、陸前高田市の旧市役所庁舎が解体されることになり、工事開始を前に10日お別れ式が行われました。陸前高田市の市役所旧庁舎は、海岸から1キロ以上離れた場所にありましたが、建物の4階まで津波により浸水しました。お別れ式には震災当日はこの建物の屋上に避難し一夜を明かした戸羽太市長や遺族が参列。犠牲者の冥福を祈り献花しました。戸羽市長は「たくさんの市役所の仲間と仕事をさせてもらったので、そういうことを思い出すと複雑な思い」と話していました。震災の記憶を風化させないため、建物の保存を求める声もありますが、陸前高田市では犠牲者の出た建物はとり壊す方針です。

(11/10 岩手日報 IBCニュースより)

## 大船渡発

### 被災の三鉄車両、解体始まる



大船渡市の三陸鉄道・盛駅では津波で被災した鉄道車両の解体作業が始まりました。盛駅は海岸線から3キロほど離れていますが、去年、高さ1mの津波が押し寄せました。作業にあたったのは三陸鉄道の運転手たち。これまでの運行に感謝の気持ちを込めながらドアの開け閉めに使われる弁や蛍光灯を取り外していました。三陸鉄道は、来年春には盛駅から一部の区間で、列車の運行が再開される予定となっています。(11/14 ニュースエコーより)

## 宮古発

### さんりく元気ラジオ

(毎週水曜日・ワイドステーション・午後3時半～)

今週(14日)はみやこ災害FMの佐藤省次さんが、今月11日に行われた「宮古サーモン・ハーフマラソン大会」について伝えてくれました。遠くは北海道旭川市や熊本市など、まさに全国各地から訪れた約2千8百人のランナーが参加して開催されたこの大会。参加者には84歳の男性から小さなお子さんまで、また震災直後に現地で活動した自衛隊の方もいらしたそうです。そして沿道の声援を受け、少しずつ復興が進む宮古の街並みを見ながら走った後は、美味しい鮭汁、鮭ごはん、サンマの塩焼きが振る舞われました。また、思い思いにグループをつくり、一年ぶりの再会を喜び合う姿もあちこちで見られたという事です。



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中  
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>  
IBC復興支援室事務局 019-623-3122